

三田市男女共同参画市民意識調査
報 告 書

令和4年11月

三 田 市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査実施概要	1
3.	報告書の見方	1
II	調査結果の概要	2
III	調査結果	5
1.	回答者自身と家族のことについて	5
(1)	居住地区	5
(2)	年齢	5
(3)	性別	5
(4)	配偶関係	6
(5)	家族構成	6
(6)	同居人	6
(7)	職業	7
(8)	通勤時間（片道）	9
(9)	週あたりの労働時間	10
(10)	1日の家事・子育て・介護時間	13
(11)	配偶者・パートナーの職業	20
(12)	配偶者・パートナーの週あたりの労働時間	20
(13)	配偶者・パートナーの1日の家事・子育て・介護時間	21
2.	男女平等に関する意識について	27
(1)	各分野及び社会全体における男女の地位の平等感の意識	27
(2)	男女共同参画に関連した用語の認知度	37
3.	家庭や地域での役割分担について	48
(1)	家庭や地域での役割分担の希望と現実	48
4.	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	60
(1)	生活において大切にしたいこと	60
(2)	生活において実際に大切にできていること	62
(3)	育児休業・介護休業の取得意向	64
(4)	育児休業・介護休業を取得する条件	65
(5)	男性の育児休業・介護休業取得に対する考え	66
(6)	男性が家事、子育て、介護等を積極的に行うために必要なこと	68
(7)	地域活動での男女の役割分担の実態と回答者の考え	78
(8)	仕事や生活などの悩みやストレスの相談の有無	84
(9)	様々な困難や不安を抱えがちな人への支援で必要だと思うもの	86

5. 職場等での女性の活躍について	87
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意識	87
(2) 女性の就労についての考え方	89
(3) 女性の昇進についての考え方	92
(4) 女性が仕事を続けていく上で支障となるもの	94
6. DV（ドメスティック・バイオレンス）について	108
(1) DV・デートDVの認知度	108
(2) DV（デートDV）の被害状況	110
(3) DV（デートDV）被害の相談状況	120
(4) DV（デートDV）被害を相談しなかった理由	122
7. 市の施策等について	124
(1) 防災・災害対策において性別に配慮した対応が必要だと思うこと	124
(2) 三田市が男女共同参画推進のために力を入れるべきこと	126
8. 自由意見	130
IV 資料編	136
1. 調査票	136

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和4年度に改定予定である「第6次三田市男女共同参画計画」策定資料として、男女共同参画社会に関する市民意識を把握するため実施しました。

2. 調査実施概要

対 象	三田市内在住の満18歳以上の方 2,000人 (住民基本台帳から無作為抽出)
調査実施時期	令和4年3月7日(月)～3月28日(月)
調査方法	郵送配布、郵送・WEB回収
有効回答数	887件(44.4%)
調査内容	1. 回答者自身と家族のことについて(問1～15) 2. 家庭や地域での役割分担について(問16) 3. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について(問17～25) 4. 職場等での女性の活躍について(問26～29) 5. DV(ドメスティック・バイオレンス)について(問30～33) 6. 市の施策等について(問34～35)

3. 報告書の見方

- ・ 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・ 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ・ 表については、報告書内で注目している箇所を「**■**+太字」表記にしています。
- ・ 年代別クロス集計における10歳代など、回答者数(n)が少ないものについては、本調査の結果が三田市における当該年齢層の傾向とは異なる可能性があることをご理解の上、調査結果をご覧ください。
- ・ 前回調査とは、三田市が平成29年1月～2月に実施した「平成29年度三田市男女共同参画市民意識調査」のことです。

Ⅱ 調査結果の概要

1. 回答者自身と家族のことについて

(p7参照) 回答者の職業は、女性で「パート・アルバイト・派遣社員等」が31.3%、「家事専業」が27.1%となっている一方で、男性で「常時雇用されている一般従業者」が48.3%と、女性で非正規雇用の割合が高くなっています。性年代別にみると、男性の「30～50歳代」では「常時雇用されている一般従業者」が8割を超えていますが、女性は年齢が高くなるにつれて「常時雇用されている一般従業者」の割合が低くなる傾向にあります。

(p10参照) 週あたりの労働時間は、女性で「20時間以上40時間未満」、男性で「40時間以上60時間未満」がそれぞれ最も高く、男性での労働時間が長くなっています。

(p13参照) 1日の家事・子育て時間については、平日・休日ともに女性で長い傾向がみられます。

2. 男女平等に関する意識について

(p27参照) 各分野及び社会全体における男女の地位の平等感は、「④学校教育の場」において「平等である」が53.8%と5割を超えています。一方で「①家庭生活で」・「⑥社会通念・習慣・しきたりなど」・「⑧社会全体でみて」では、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合が6割を超えています。いずれの分野も「平等である」の割合は女性で低く、「①家庭生活で」・「②就業の機会」・「⑤法律や制度の上で」・「⑦自治会やNPOなどの地域活動の場」・「⑨住んでいるまちをみて（三田市に住んでみて）」で、男性との差が10ポイント以上となっています。前回調査と比較すると、「③職場で（業務内容、昇進、昇給、職場環境など）」以外の項目全てで、前回調査より「平等である」が低くなっています。

(p37参照) 男女共同参画に関連した用語の認知度は、「④男女雇用機会均等法」・「⑤育児・介護休業法」・「⑥ジェンダー」・「⑧セクシュアル・ハラスメント」・「⑨DV防止法」で『知っている』（「よく知っている」と「少しは知っている」の合計）割合が5割を超えている一方で、「③第5次三田市男女共同参画計画」・「⑦ポジティブ・アクション」・「⑩三田市配偶者暴力相談支援センター」では「全く知らない」が5割程度を占めています。前回調査と比較すると、「⑥ジェンダー」で『知っている』割合が27ポイント増加しています。

3. 家庭や地域での役割分担について

(p48参照) 家庭での役割分担の希望と現実についてたずねたところ、「①生活費を稼ぐために働く」は「主に男性」が希望44.9%・現実66.8%となっています。一方で、「②家事（洗濯、掃除、食事準備・片付けなど）」は「主に女性」が希望38.0%・現実77.2%、「③日常の家計管理（家庭のお金の管理など）」は「主に女性」が希望32.0%・現実53.8%となっています。「④学校・地域の行事参加、近所とのつきあい」・「⑤子育て（子どもの世話）」・「⑥介護（高齢者・病人などの世話）」は、希望としては「男女同じくらい」が6割を超えているものの、現実には「主に女性」の割合が高くなっています。前回調査と比較すると、「②家事（洗濯、掃除、食事準備・片付けなど）」・「③日常の家計管理（家庭のお金の管理など）」・「⑤子育て（子どもの世話）」の現実で、「男女同じくらい」が前回調査より5ポイント以上高くなっています。

4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について

（p 60参照）生活において大切にしたいと望むものは、「家庭生活」が85.5%、「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」が42.1%、「仕事」が38.7%となっています。実際に大切にできているものは、「家庭生活」が74.7%、「仕事」が39.5%、「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」が28.9%となっており、「家庭生活」と「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」で、乖離が大きくなっています。

（p 64参照）育児や介護の必要な家族がいると仮定した場合、育児休業・介護休業を取得できるかについては、「どちらも取得できる」が23.4%と最も高い一方で、「どちらも取得がむずかしい」が21.6%となっています。前回調査と比較すると、「どちらも取得できる」が前回調査より11.7ポイント高くなっています。

（p 65参照）どのような条件が整えば、育児休業・介護休業を取得するかについては、「収入減がないなど経済的な条件が整えば取得したい」が47.6%と最も高く、次いで「職場の両立支援のサポートが整っていれば取得したい」が47.2%となっています。

（p 66参照）男性の育児休業・介護休業取得に対する考えは、「男性も積極的に取得すべきである」が46.3%と最も高く、次いで「個人の権利、自由であり、こうあるべきとはいえない」が31.2%となっています。

（p 68参照）男性が家事、子育て、介護等を積極的に行うために必要なことについては、「③夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」・「⑥男性による家事、子育て、介護等について、職場における上司や周囲の理解を進めること」で、「特に必要である」が4割を超えています。

（p 78参照）地域活動での男女の役割分担の実態については、「⑤地域活動団体の長になる」で「どちらかという男性」が40.9%と最も高いものの、その他の項目では「男女同じくらい」が最も高くなっています。

（p 84参照）仕事や生活などの悩みやストレスの相談については、「相談している」が女性73.5%・男性48.8%と、男性で低くなっています。

（p 86参照）様々な困難や不安を抱えがちな人への支援で必要だと思うものについては、「生活支援や就業などの自立支援につながる福祉サービスの充実」が62.0%と最も高く、次いで「気軽に立ち寄れ、仲間をつくれる居場所づくり」が54.0%となっています。

5. 職場等での女性の活躍について

（p 87参照）「男は仕事、女は家庭」という考え方については、『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する」の合計）割合が女性22.7%・男性38.8%、『同感しない』（「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」の合計）割合が女性74.8%・男性58.6%と、女性で否定的な割合が高くなっています。前回調査と比較すると、全体では『同感しない』割合が前回調査より6.0ポイント高くなっています。

（p 89参照）女性の生き方・働き方についての考え方は、「結婚や出産・育児の有無に関わらず仕事を続ける」が36.9%と最も高く、次いで「結婚や出産・育児などで一時仕事をやめ、再び仕事を始める」が34.4%となっています。

（p 92参照）女性の昇進についての考え方は、「能力を認められた結果である」が69.2%と最も高く、次いで「責任が重くなる」が53.2%となっています。

(p94参照) 女性が仕事を続けていく上で支障となるものについては、「⑧男性の仕事時間(残業等)が長く、家事、子育て、介護等への参加が不十分」・「⑩実質的に仕事と家庭の二重負担を強いられる」・「⑪社会通念上、性別による役割分担意識が残っている」で「そう思う」が6割を超えています。また、特に改善が必要と思うものについては、「育児休業や介護休業を容易に取得できる職場環境の整備が不十分」が26.5%と最も高くなっています。

6. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

(p108参照) DV・デートDVの認知度については、「内容を知っていた」がDVで79.8%、デートDVで33.9%と、デートDVで認知度が低くなっています。

(p110参照) DV(デートDV)にあたる行為の認知度については、「④生活費を渡さない、使わせない、仕事に就くことを禁じる等(経済的暴力)」・「⑤実家や友人などとの交友関係を制限する、外出を制限する、携帯電話、メール、SNSの監視・制限等(社会的暴力)」で、DV(デートDV)にあたることを「知らなかった」割合が2割を超えています。

(p110参照) DV(デートDV)の被害経験については、すべての暴力の形態で、『被害経験あり』(「自分自身が何度も被害にあったことがある」と「自分自身が一、二度被害にあったことがある」の合計)の割合が女性で高くなっており、特に「②大声でどなる、脅迫する、無視、ののしりバカにする等(精神的暴力)」では、14.0%と1割を超えています。

(p120参照) 被害にあった際の相談状況については、「友人・知人・職場の同僚に相談した」が17.6%、「家族や親せきに相談した」が15.8%を占める一方で、「何もしなかった」が24.8%となっています。相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」・「相談するほどではないと思った」がともに23.2%を占め、最も高くなっています。

7. 市の施策等について

(p124参照) 防災・災害対策において性別に配慮した対応で必要だと思うことについては、「避難所の設置(トイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等)」が89.7%と最も高く、次いで「災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制)」が73.4%となっています。

(p126参照) 三田市が男女共同参画を推進するために力を入れるべきだと思うことについては、「安心して産み育てられる子育て環境づくり」が59.8%と最も高く、次いで「高齢者・障害のある人が安心して暮らせる環境づくり」(56.4%)、「DVやセクハラ、児童虐待、高齢者虐待等の根絶・防止」(42.4%)となっています。